

⑭ 淡青書道教室活動報告

幹事世話人 神戸潔

1. 教室概要

- ① 発足 平成 23 年度鎌倉淡青会において承認を受け、同年 7 月より「淡青書道教室」として発足した。発足以来 5 年を経過した。
- ② 場所 北鎌倉「雪堂美術館」
 - ・書家故小野田雪堂氏(1925~2005) が平成 7 年に創設した鎌倉唯一の書道美術館で、1 階が展示ホール、2 階が和室の一般書道教室となっている。淡青書道教室の会員は高齢者であり正座不能を考慮し、美術館の定例休館日に展示ホールを開放し、机・椅子を用意し淡青の為の教室とした。
 - ・窓外正面の庭には鎌倉としても大きい「やぐら」があり、池には親鯉 2 匹を中心に百匹を超す生後 5 年の若緋鯉が元気に泳ぎ回っている。鎌倉街道に面した門から若干奥まっているので、極めて静かな環境に恵まれた書道教室である。
- ③ 教習日 定例教習日は毎月第 2 木曜日、午前 10 時～午後 3 時
 - ・出退時刻は自由、短時間だろうと全日でも可
- ④ 指導 小野田芝雪先生
 - ・書芸新潮社副代表、国際書画連盟常任理事審査員

2. 研修状況

- ①教室は月 1 回の為、教室の上部組織「書芸新潮社」発行の会報「書芸新潮」の送付を受け、各種課題（規定・随意・細字実用字等）の自宅習作を行ない、教室で提示して先生の添削指導を受ける。雪堂美術館の 2 階に一般教室として「日曜教室」「水曜教室」（各月 1 回～3 回の利用が可能）があり、現在会員 2 名が 1 日「水曜教室」に入り、研修を 2 回にして研修密度を高めている。
- ②研修内容は個人別に自分で選択し細楷文字、条幅等に挑戦している。先生の指導を受け自分で選択し王羲之の蘭亭序等の中国古典の臨書あるいは条幅の制作にあたっている会員もいる。
- ③書道の格は書芸新潮社では昇格試験によって昇段する。3 段までは年 2 回、それ以上は年 1 回の昇段チャンスがあり、毎回試験を受ける人も、たまには受けない人もいるので、現段階では初段から 4 段までの若干の格差が生じているが、全員は向上心が高く、一生懸命である。
- ⑤ 全国の上部組織の「国際書画連盟」主催の「国際書画展」（六本木国立新美術館）にて今回会員が初めて入賞している。
- ⑥ 毎年 7 月に開催される書芸新潮社恒例の「夏期合宿錬成会」に本年度は会員 3 名が参加する予定である。合宿は 2 泊 3 日であるが、各担当の先生方が終始身近で指導していただける。条幅制作の取り掛かりには絶好の機会となっている。